

もうひとつの「家族」

リー・テラスリン

日本へ来る前、日本の事情が分らないのでとても心配しました。運よく先輩たちから家族のように私たちは十分な世話を受けたので、早く日本の生活に慣れました。先輩がたくさんの問題を解決するのを手助けしてくれました。先輩たちは私のもう一つの「家族」です。

日本に着いた日は、先輩が私たちをバス停へ迎えに来てくれました。それで、とても安心しました。学校に着き、荷物を置いて少し休んでから、私たちは先輩に百円ショップへ連れて行ってもらいました。百円ショップにはいろいろなものがあり、とても安いのですが、私たちはそのまうな日用品を買ったことがなかったので、困りました。すると、先輩は何を買うべきか教えてくれました。それから、近くにあるすま家へ一緒に行ってご飯を食べてくれました。そして学校に帰って来ました。私は丈夫ではなく、長旅だったので疲れ

て病気になりました。風邪を引いたようでした。
先輩は兄のように心配してくれて、お湯を飲
み、暖かいシャワーを浴びるように私に言い
ました。「薬を国から持って来ていなければ、
遠慮なく言ってくださいね。」と先輩は言いま
した。「私の所に薬があるよ。」その言葉で、
安心しました。

このような問題に加えて、日本へ来たばかり
なので、日本料理が食べられなくて困りま
した。先輩は国と同じような食材を売ってい
る店を知っていたので、私たちを連れて行っ
てくれました。それで、食事の問題が解決し
ました。それだけでなく、週末に先輩と一緒に
料理を作って食べるようになりました。い
ろいろ話すことができ、楽しいです。週末の
パーティも楽しいですが、カンボジアの新年
に神戸でした新年会はもっと規模が大きいの
で楽しくてためになりました。この新年会
では、カンボジアの料理が食べられ、民族衣装
を着てカンボジアの伝統的な踊るをすること

がでま、カンボジアにいるような気持ちになりました。そしてその新年会で大阪以外に住んでいる先輩と会えました。それで、いろいろな経験を話してもらいました。先輩の中には卒業して日本にある会社に勤めている人もいました。他には大学を卒業して大学院へ行って、研究を続けている先輩もいました。先輩は自分の日本でのこれまでの生活を私に教えてくれました。困難に対して努力した時や、実がなくてもあきらめなかった時など、いろいろな経験を教えてくれました。私はその話にはげまされ、私も先輩と同じように頑張ろうと自分に言い聞かせました。

その日以降、一生懸命勉強してきます。たくさん問題がありますが、いつも先輩が手伝ってくれます。効果的な勉強方法やいい本を紹介してもらい、大まな本屋へも連れて行ってもらいました。今勉強している専門学校のことや専門学校を卒業していい大学に編入することをもたくさん教えてくれました。例えば、

どの大学が有名か、受験資格は何かなど"を詳しく教えてくれました。

先輩たちは思った以上に熱心に私の面倒をみてくれるので、私はまるで兄弟と暮らしているように感じます。そして、海外留学をしているのに、今までホームシックにな、たこゝが一度もありません。先輩たちは私の模範範です。来年私は先輩になるので、絶対に私の先輩と同じように後輩後輩の面倒をみようとします。病気の時に熱心に看病してくれ、困難がある時に手伝ってくれ、送っている時に背中を押してくれる人たちは自分の「家族」じゃないのでしょうか。もしがすると外国に住んでいる皆さんも、もう少し周りの人を注意深く見てみると、私と同じようにもう一つの「家族」がすでにいるかもしれせん。